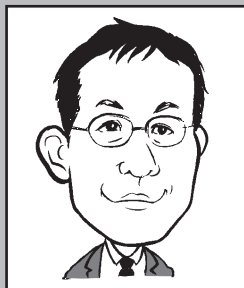


○新しく住む人も古くから住む人もともにふるさとと呼べる「越谷」づくりを目指して！

越谷市議会議員

平成 29 年 3 月発行 No.14



# 大野やすし市政報告

〒343-0806 越谷市宮本町 1 - 9 4 - 3

電話 /FAX 048-940-0155

携帯 080-3300-8100 アドレス y.ohno2335@themis.ocn.ne.jp



HPあります。検索エンジンでy-ohno.jpと入力してください。FB、ツイッターもよろしくお願ひします。



越谷ツインシティ段飾

越谷市3月定例会は、2/22～3/17まで開催され、私は代表質問に登壇しました。今回の市政報告ではその代表質問の概要を紹介します。代表質問では、①若者が結婚し、子ども3人を産み育てやすいまちづくり②東京圏にあるポテンシャルを活かす魅力ある都市整備の検討③中心市街地活性化の取組と地域の魅力の向上④交通ネットワークの整備⑤地域包括ケアシステムの構築⑥生きる力を育む教育に腰を据えて取り組むの6点から市長、教育長の見解を問いました。概要と私の見解は以下のとおりです。市民のみなさんが感じる、市政についてのご意見・ご要望、遠慮なく、私にお聞かせください。

## 1 若者が結婚し、子ども3人を産み育てやすいまちづくり



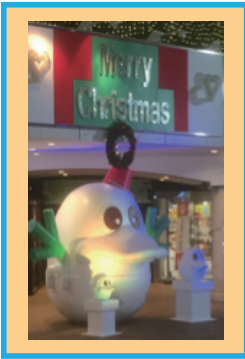
◇国が人口減少する中、越谷市も平成33年の34万人をピークに人口が減少し始めると想定されています。しかも、今、日本では30歳までに約半数が結婚せず、将来的には女性の5人に1人、男性の4人に1人が独身のまま生涯を終える可能性があるといわれ、若者は恋愛が面倒で無理に結婚するものでもないと考えているといわれています。人口減少社会の今日、私は、若者が結婚し、子育てしやすいまちを築いていくことは、越谷市の重要なセールスポイントのひとつになると考えます。

◇そこで、①越谷市においても様々な機会をとらえて婚活を支援する時期にきているのでは、と考え、若者が結婚しやすい環境づくりについて市長、教育長に問いました。越谷市では現在社会福祉協議会がお見合いパーティを実施し、これまで5年間で63組のカップルが誕生（成功率約25%）するなどの成果があがっているとのことでした。

◇また、②学童ニーズの高い市内小学校の学童保育室が概ね2室化されましたが、2室化後もニーズが高い地域での学童保育室2室化後の需要増への対応について尋ね、学童側と学校側とが現場レベルでも、「転用可能教室」の有無以上に、一層、連携協力を図る必要がある旨、市長、教育長に問いました。今後は、公共施設等総合管理計画を踏まえて、これまで以上に小学校と学童とが現場レベルでも連携協力を図るとのことでした。

◆子ども3人を安心して産み育てられる越谷づくりという観点から、子育て家庭の皆さんとともに、引き続き、子育て環境の向上について積極的に取り組んでいきます。

## 2 東京圏にあるポテンシャルを活かす魅力ある都市整備の検討



南越谷サンシティ



レイクタウン

◇都市を活性化していくためには適切な投資が継続されることが重要です。人口減少社会にあって良好な都市整備が続けば成長し、そうでなければ落ち込んでいく、越谷市は東京圏のメリットが享受できる丁度その境目にあると私は考えています。レイクタウンや西大袋の区画整理事業が平成 32 年度完了予定と、収束が見えてきた今日、平成 33 年の第 5 次総合計画の策定を睨んで、東京圏にあるメリットを活かす新たな都市整備を検討することは越谷市の未来にとって極めて重要です。

◇そこで①南越谷の業務利用増大を睨んだ元ダイエー・現イオンの周辺地区の一体的な再開発②レイクタウンの魅力向上を目指した水辺のまちづくり館周辺の土地利用③JR 武蔵野線高架化と周辺地域の区画整理を目指した（仮称）出羽公園駅の設置について問いました。①②は今後検討し、③は現在の市の方針では困難とのことでした。

◆今後も、越谷の未来を創る都市整備の可能性を、皆さんとともに様々な観点で検討・提案していきたいと考えます。

## 3 中心市街地活性化の取組と地域の魅力の向上



油長内蔵



旧大野邸



越ヶ谷秋まつり



市役所新庁舎イメージ

◇平成 25 年 3 月に策定された「中心市街地活性化基本計画」。法定計画にはなりませんでしたが、関係者の様々な取組が進められている中で①中央住宅との連携協定の締結と油長内蔵の活用②蔵や古民家に対する観光の観点からの案内板の設置及び維持・補修に対する助成制度③越ヶ谷秋まつりの文化財指定検討の可能性④市役所新庁舎建設に伴う市役所通り線の市役所までの延伸⑤市役所新庁舎における協働ゾーンの活用とウッドデッキとの連携について市長及び教育長に問いました。

◇①については、市と中央住宅が協力して歴史的景観を残す蔵や古民家等を活用した趣きあるまちづくりを推進し、「油長内蔵」はまちづくりの拠点として専門家による相談を受ける場として活用していくとのことでした。

②については、案内板については地元で作成した「ガイドマップ」等を活用してほしい。助成制度についてはあり方を検討していくとのことでした。

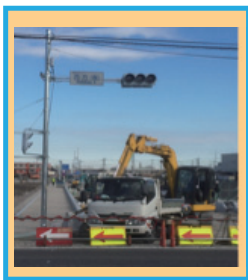
③については、秩父夜祭や川越まつりが世界遺産に指定されたことを踏まえ質問したところ、本市の貴重な行事であり関係者からの情報提供を踏まえ慎重に対応するが、資料が整えば文化財に指定は可能とのことでした。

④については「中心市街地活性化基本計画」にも位置づけられ、必要性を認識しており、今後、整備手法を調査・研究していくとのことでした。

⑤については、市役所協働ゾーンとウッドデッキとの一体利用もできる整備を検討とのことでした。

◆新庁舎の整備には第三庁舎も含め、合計 100 億円ともいわれる事業費が投入されます。新庁舎建設の効果を中心市街地の活性化に結びつく仕掛けをなんとか盛り込んでいく必要があると改めて感じました。引き続き粘り強く取り組んでいきますのでよろしくお願いします。

## 4 交通ネットワークの整備



西方工区



北越谷駅



大房付近踏切

◇市内交通ネットワークの整備ということで①市内都市計画道路主要幹線の整備②東武スカイツリーラインの課題③大袋駅西口を活用したバス路線の整備について市長に問いました。

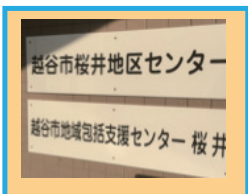
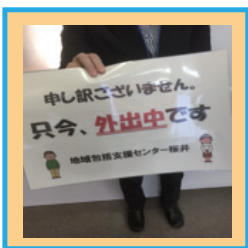
◇①については3/25に県道越谷八潮線の西方工区が供用開始されるとともに、東埼玉道路の国道16号までの延伸区間が75%の用地買収済。国道463号の延伸となる県道越谷野田線も近い将来、供用開始を目指し事業が進み、北越谷区間も桜並木や文教大学への影響を極力回避して地元と調整してほしい旨、主張しました。都市計画道路吉川越谷線や川柳大成町線は市が用地買収中。大袋駅西口線は今年3月末までには暫定開通予定とのことでした。

◇②については(1)北越谷駅以北の高架化が困難な理由、(2)今後、北越谷駅、南越谷駅など乗降客10万人/日以上以上の駅に順次ホームドアが設置されるなど駅の安全対策、(3)大宮駅直通列車の編成に伴いせんげん台駅が快速列車等の停車駅となることなどについて、市の取組を市長に問いました。高架化については財政と道路との交差の技術的な課題から長期的な取組、駅の安全対策はバリアフリー化を目指しホームドアや点状ブロックを設置する、せんげん台への特急列車の停車については市も情報発信の予定などとの答弁でした。

◇③は西大袋区画整理事業の進捗に伴い、浦和美園までの主要施設を結ぶバス路線の整備について、市長の考えを問いました。大袋駅西口のバス路線は、まず、せんげん台との循環路線を優先する方向とのことでした。

◆交通網はよく人の血管に例えられます。財政難でも動脈硬化を招かないよう、今後も道路、鉄道の動きをフォロー、バックアップしていきます。

## 5 地域包括ケアシステムの構築

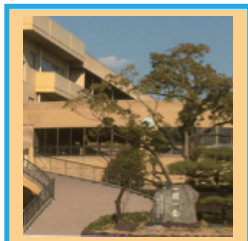


◇平成27年度の介護保険制度の改正では、地域包括ケアシステムの構築をより一層推進するため、各市町村が実施する介護予防・日常生活支援総合事業、いわゆる総合事業として、介護予防事業の大きな見直しが図られました。私は、今後ますます、自治会館を活用した様々な団体によるサービスの提供が重要になると考え、市の取組を問いました。

◇市では「介護予防リーダー養成講座」を28年度6自治会で実施するとともに、本年10月から、総合事業として多様なサービスを提供できるよう、実施団体を支援するガイドラインの作成や補助制度、研修制度などを検討しているとのことでした。

◆今年3月から、地域包括支援センターが順次地区センター内に移転します。既に桜井(3/1)、蒲生(3/15)、増林(3/16)では移転しています。私も昨年、介護職員初任者の資格を取得しましたが、介護予防を始め、市民が介護をより身近な問題として受け止めて地域に取り入れていく必要があると感じます。

## 6 生きる力を育む教育に腰を据えて育む



中央中学校



高架下学童保育室



子ども食堂

◇人口減少の中、成長していく子ども達が、生きる力を少しでも身に付けてほしいとの願いから、今回は①中1ギャップを埋める小・中学校一貫教育の取組と成果②長期休業の短縮化や土曜授業の実施による学習時間の確保③部活休養日と部活への外部指導者の導入について、教育長に問いました。

◇①については平成27年度より、各中学校区ごとに取組、義務教育9年間を見通した教育をめざし、小中の様々なレベルでの交流を進めた結果、学力向上や不登校児童生徒の減少などがみられたとのことでした。

◇②については平成32年度から導入される新学習指導要領で小学校高学年の授業時数が35時間増えるため、早期の対応を求めましたが、様々な課題があることから総合的に調査研究していくとのことでした。

◇③については教員業務の働き方改革や外部指導者の効果的な活用を更に進めていくとのことでした。時代背景の変化から、一人の顧問の熱血指導から複数指導者の複眼的合理的な指導への変化を求めていきたいと思いました。

◆教育については、子育て家庭の共働き化が進み、地域の弱体化などで子どもの支え手が減っていることを感じます。セーフティネットの底が抜けないようにするとともに未来を担う子ども達の生きる力の向上を願って、子ども食堂など地域活動の実践も含め今後も様々な取組をしていきたいと思っています。



### 大野やすしの3つの主張

「マイ・ホームタウン越谷」の実現に向けて

- 誇りを持てるまち越谷を築く
- しぶとい日本人の再生を目指す
- 簡素で効率的な行政体制を創りあげる

### 経験から取組む5施策

- 1 子ども・教育施策の推進
- 2 まちづくり・経済産業施策の展開
- 3 危機管理施策の強化
- 4 観光を通じた伝統・文化の活性化
- 5 行財政改革の徹底

### 経歴

S38 宮本町生まれ、越ヶ谷小、中央中、越ヶ谷高、明治大学政経学部卒  
S62～H23 東京都職員（建設、行革、防災等）、元越ヶ谷高校同窓会副会長  
H23.4 越谷市議初当選  
H27.4 越谷市議当選（2回目）

### 家族

父、母、妻、3男1女の8人家族

